

令和4年9月15日（木）14時～

香芝市総合福祉センター

記録者：葛城市社協 高橋

【出席団体】

圏域マネージャー、葛城市社協、生活支援センターなっつ、高等養護学校、西和養護学校、大和高田市、香芝市、広陵町、葛城市、NPO 法人えん、えいぶる、しえーく、おかわり、ダイアリー、せせらぎ会高田園、あっとほーむ香芝、マインドホーム高田、D-PORT、障害者職業センター

案件 ①部会長挨拶 ②福祉事業所体験会について ③福祉事業所情報掲載について ④就労アセスメントについて D-PORT 中屋氏より講演 ⑤グループワーク

部会長挨拶

福祉事業所体験会について

第1回目を事務局である香芝市で11月16日(水)午後より2時間程度予定している。想定は福祉サービスを利用したことがない参加者に福祉サービスの利用の流れなどのイメージを持ってほしい。

参加する事業所名を公表して開催し、できれば、部会に参加している事業所にブースを出してほしい。

年度内に他市町も実施したい。

福祉事業所情報掲載について

事業所の1日の流れ等の資料を参加者に回覧（D-PORT 中屋氏提供）

ブログなどを通じて気軽に事業所の情報が閲覧できればいい。

就労アセスメントについて

D-PORT 中屋氏より就労アセスメントの配布資料に基づいて講演

部会 グループワーク

A グループ

- ・質問は関係性をつくり、尋問にならないように
- ・客観的に。感情的にならないように
- ・身体障害の方は聞き取りしやすい。知的・精神障害のある方は難しい。また、市窓口対応だと時間に限りがある。
- ・見窓口だとサービス説明とかメリット・デメリットのことで時間が取れない。
- ・知識や根拠がないとやり取りが曖昧になる。
- ・初回で聞き取れることはほんの少し（一部）で、ニーズも変化していく。表現方法も

- ・保護者からの聞き取りも大切だが、利用につながると遠慮されることも
- ・直Bとかマニュアル有の就労アセスメントもあるが

B グループ

- ・最近では計画作成をさばく感覚
- ・失敗と成功を繰り返しながら共に考えていくことが大事にしていた。
- ・学校においては、3年間で何らかの答えを出さないといけない難しさ。
新しいタイプのお子さんが増え、不登校児が多い。思うように進まない。
- ・アセスメントの難しさ実感。最近では精神の人が動き出している。
- ・一年たって利用者さんの特性や心の変化を感じ取れるように。作業の様子を見て、成長が感じられたり、一般就労へのビジョンが見えてくることが喜び。その人に合う作業を見出すことの大切さ、役割を実感。
- ・今すぐ就労につなげる方がいない中で、家庭の事情で就労を急いでいる人が多い。当初は支援者としての押しつけもあったかもしれないが、経験の中でその人が主役になれるような支援ができるようになってきた。
- ・長年引きこもり等就労から遠のいていた人に、いかにやる気・意欲を出してもらえるか。

C グループ

- ・現場でいくら言ってもわからないから、専門家の立場として対象者に伝えてほしいという依頼がある。
- ・支援者や家族はニーズがあるが、本人にニーズがない。
- ・企業につなげるにしても個々の特性は異なるため個人の詳細な情報を適切に伝えなければならない。
- ・現場で必要なのは「欲望形成支援」

D グループ

- ・人間関係で離職される方が多い。本人にとって人間関係とは？具体的な何かがあったのか、何がどう辛いのか？
- ・本人の特性や能力のアセスメント対象者が未成年の為、両親の意見にも左右される。就労経験がなかったり、親と同居、親との関係性
- ・本人に対するアプローチ、支援者の見立て家族の想い、本人の希望の差。
- ・〇〇したい！こうしていきたい！という本人の想い
⇒それに対する様々な問題がある。それでもやっぱり本人に寄り添っていく。本人が想ってとった行動を汲み取っていく。
⇒本人との関係性を大切にしていく。
- ・支援者としてつなぎ役として動くことが多い。

その他

行政実習に関しては以降に課題を検討

次回は

11月16日(水) 体験会

11月17日(木) 就労支援部会